

寛永寺：旧本坊表門

寛永寺の本坊は、現在の東京国立博物館の地にありました。本坊は当初 1625 年に完成しました。寛永寺が開かれたと考えられている年です。幾世紀にもわたって再築と修復を繰り返しましたが、常に寺の中心的要素となってきました。寛永寺は徳川幕府と深いつながりがあり、1600 年代後半以降、江戸で最も繁栄し影響力のあった寺の 1 つでした。敷地は現在の上野公園全てを含むもので、脇寺、神社、碑が敷地に点在していました。1867 年の倒幕後、寛永寺は特権的な立場を失いました。寺の建造物のほとんどは、1868 年の 7 月に焼け落ちました。明治天皇（1852～1912 年）の新政府が、寛永寺で抵抗した、幕府に忠誠を誓う人々を打ち負かしたのです。

本坊の表門は、火災を免れたわずかな建造物の 1 つであり、1868 年の戦いによる弾痕を今でもはっきり見ることができます。黒門としても知られ、1650 年代のものとされています。1882 年の国立博物館の開館以来、表門として保存されてきました。1937 年には現在の場所に移されました。政府が建造物の所有権を寛永寺に戻した年です。現在では、天海（1536?～1643 年）を祀る開山堂の前に建っています。天海は影響力のあった仏僧で、寛永寺の開祖また初代住職です。